



ほこっと

TEL 0598-38-1133

<http://www.town.taki.mie.jp/library/index.html>

序詞

室生犀星
むろうさきせい

生きものの

いのちをとらば

生きものはかなしかるらん。

生きものをかなしがらすな。

生きもののいのちをとるな。

詩人室生犀星の「生きもの」について詳しくは読みたい詩」

あゆみ出版

「動物詩集」の序詞で、戦時下（一九四三年）に発表されました。生きものを見る視線は優しいそのもの。いつの時代にも通じる詩だと思えます。今だからこそ、読んで欲しいのです。

● 家読（うちどく）のススメ ●

絵本の時代を過ぎても、おうちの方が子どもたちに読んであげて一緒に楽しみましょう。

「耳からの読書」は「体験」となり心地よく身体に刻まれていきます。こうして積み重ねられた記憶は子どもの一生を、そして大人の日々も支えてくれます。

Q：小学校2年になりますが、ひとりでは本を読まないのですが・・・。

A：おうちの方がどんどん読んであげてください。長いお話も、日々の積読で1冊の本が読めますよ。

夏休みは図書館で!!

● 夏休みおはなし会 ●

・8月7日(火)
10:30~14:00
ストーリーテリングをまじえたおはなし会です。夏休みにおすすめの本も紹介します!

● 葉っぱの図書館をつくろう! Part2 ●

・8月21日(火)
13:30~16:00
絵の具を使って、カラフルな葉っぱのマイ図書館をつくろう! **申込受付中!**

10:30~ ● おはなし会のご案内 ●

- ・図書館のおはなし会【どなたでも】 8/4(土)
- ・おはなしおもちゃ【乳幼児】 8/10(金)
- ・おはなしぼけっと【小学校低学年まで】 8/11(土) 8/25(土)
- ・赤ちゃんのおはなし会【0~2歳児】 8/24(金)

8月

■はお休みです。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 おはなし会
5		7 夏休み おはなし会	8	9	10 おもちゃ	11 ぼけっと
12		14	15	16	17	18
19		21 葉っぱの 図書館をつくろう!	22	23	24 赤ちゃん	25 ぼけっと
26		28	29	30		

● 図書館利用案内 ●

- ☆ 開館時間：午前10時~午後6時まで
- ☆ 貸出期間：2週間
- ☆ 貸出冊数：ひとり10冊まで

『サピエンス全史』 上下

ユヴァル・ノア・ハラリ 河出書房新社

ホモ・サピエンスが繁栄したのは何故か。農耕の始まりは？ 私たちは小麦の奴隷だった？ 壮大な人類の歴史が、なぜ『ビジネス書大賞』に？ 科学や政治・経済と現代までつながると、すべて(?)もワクワクするほど腑に落ちる。当たり前だった概念が面白いように崩されてしまい目からウロコ！ まずは上巻をぜひおススメです！



今月のおすすめ

『野菜美』 奥田真 (おくだ・みのる) 新潮社



おいしい野菜たちが芸術品となった。ミョウガの花つぼみの中はクリーム色の花が咲くメルヘンの世界。野菜の秋めた野生美を追求した写真集。

『でんせつ』 工藤直子 (くどう・なおこ) 詩 あべ弘士 (あべ・ひろし) 絵 理論社



イルカはくると泳いで、海をくすぐっている。だから、海は安心して笑っている。あなたに身の回りの生きものにも、どんな伝説があるのだろう。心地よくて、くすりと笑える動物たちの詩画集。

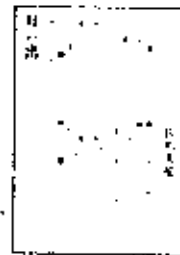
『戦争をよむ 70冊の小説案内』

中川成美 (なかがわ・しげみ) 岩波書店



本書は昨年戦後70年にあたり『忘れられに記憶—戦争文学再読』とともに刊行されたもの。物語に込められた、戦時下を生きる人々の葛藤、苦しみ、悲しみを通して、戦争と平和を考える糧になればと願う。

『日の出』 佐川光晴 (さがわ・みつはる) 集英社



明治の終わりから始まる13歳の清作と現代を生きるひ孫のあさひ。過酷な試練に日の出は生への光であり希望となる。決して出会うことのない二人の人生を開いたのは「在日朝鮮人」の人たちだった。

『笹の舟で海をわたる』

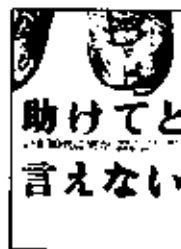
角田光代 (かくた・みつよ) 毎日新聞社



疎開先が一緒の縁で義姉妹になった左織と嵐美子。思い通じにはならないのはこの人のせい？ 左織は、疎開地での記憶が一生まとわりついて離れない。サスペンス仕立てで引き込まれる。大人だけでなく、子供たちも必死に戦っていたのに。

『助けてと言えない いま30代に何が』

NHKクローズアップ現代取材班 文藝春秋



「助けて」と書かれた紙切れとともに、39歳の若さで孤独死した男性の足跡を追うなかで、見えてきた30代の実情。ホームレスの人の多くが「自分が悪い」と己を責める。個人だけの問題ではない。なぜ、彼らは「助けて」と声を上げないのか。

『遠い山なみの光』カズオ・イシグロ 早川書房



イギリスに住む悦子は長崎原爆の幻影に苦しむ。日常の細部が淡々と描かれるだけで原爆の実際の場面が一切書かれていない。だけど、恐ろしく良い物語。